

## 「学校栄養職員・大学生等を対象とした農業体験と意見交換会」開催概要

- 日時:平成26年8月21日(木)10:00～14:40
- 場所:岡山県農林業実践学習の里「体験学習農園」
- 参加者:20名(学校栄養職員等3名、大学生16名、大学教員1名)
- 主催:中国四国農政局
- 後援:岡山県教育委員会・岡山市教育委員会・岡山県学校栄養士会

### ■概要

1. あいさつ 岡山県農林業実践学習の里 体験学習農園 塾長 小西 昇一氏

2. 農業体験 10:10～11:30

#### ○作業内容

秋冬野菜の種まき(ハウス内での作業)

- ・ 施肥
- ・ 管理機、鍬を使っての畝立て
- ・ 灌水ホース敷設、マルチ覆い
- ・ カブの播種、キャベツの移植
- ・ トマト・ブルーベリーの収穫



3. 昼食・グループディスカッション 11:30～13:00

食事バランス弁当(マルイ・美作大学による共同開発商品)

「さんま竜田の彩食健美弁当」

説明者:(株)マルイ営業本部食育推進室食育推進担当 木下愛里氏



#### 4. 意見交換会 13:00~14:40

○あいさつ:中国四国農政局消費・安全部 消費・安全調整官 竹内 誠

○情報提供:中国四国農政局消費・安全部 次長 石井 一成  
「我が国の農業の現状と食育推進について」

○意見交換会:テーマごとにグループの代表者が発表を行った。

#### ◆農業体験について

- ・農業体験をすることで、一つの作物を育てるには、沢山の手間がかかっていることが分かった。また実際に体験することで種の大きさや苗の形を改めて知ることが出来た。
- ・ハウス栽培のときの水やりや、種の位置の工夫がされていることが分かった。
- ・土壌作りから体験できたので、その苦勞がよく分かった。
- ・ハウスでの農作業は初めてだったので、マルチの下にホースを引く水やりのシステムに驚いた。
- ・土作りから始まり、様々な機械や器具を利用して作っているということがわかった。
- ・農家さんが暑い中でも作業を行い、農業を行ってくれているおかげで野菜ができていることを実感した。
- ・ハウスでの作業内容、マルチのかけ方、水やりの仕組み、土の耕し方などを知ることができた。

#### ◆農政局の講演を聞いて(感想・意見)

- ・農業の効率化を考えていかないとこれからもっと農業が廃れていってしまうと思った。
- ・農業者の高齢化が進んでいるので、それを受け継ぐ若者が必要となってくるが、農業のやり方を知っている人が少ないので、もっと教える必要がある。

・耕作放棄地が増えているということを知り、農地を使ったら特典がつくような制度などを作って活用していければと思う。  
・国産や地場産物を消費しなければならないと思った。  
・農家の高齢化が問題となっているので、私たちが児童・生徒にもっと農業やその現状を伝えなければならないと思った。

#### ◆今回の体験を今後どう食育活動に活かすか

・栄養教諭を目指しているため、この体験を食育の授業で伝えていきたい。また、自分が体験したことで、根拠のある話を児童・生徒に伝えることができると思った。  
・児童・生徒達に野菜の作り方や苦労などを伝え、農家の人や食べ物に感謝して食べる授業を展開できるようにしたい。  
・給食の指導などで、食べ物ができるまでの仕組みや苦労などをビデオや写真を利用し、聴覚的、視覚的に給食時間を使って見せることにより子供達に伝えたい。  
・将来栄養教諭になったら、栄養バランスがよく、見た目もよく、食欲がわくような給食を提供するために、地場産物や旬のものをより取り入れた給食の提供をしたい。

#### ○質疑・応答

Q1. ハウスで育てるものの基準を教えてください

A. 体験農園塾長 小西氏

特に基準はありませんが、露地では、病気に弱い種類のもの、例えばトマトなどは、雨に当たったり、雨が泥を跳ね上げて病気が感染する場合があります。そういった場合ハウスの方がいいです。病気がでると、農薬の使用が増えます。

また、冬場暖房する場合には、ハウスでなければできません。それから少し早く栽培する場合、きゅうりなどは、早く出荷できれば高く売れるといった利点があります。

Q2. 耕作放棄地を利用したら特典がつくような制度を作って活用していければいい

A. 中国国農政局消費・安全部次長 石井

昨年度から、耕作放棄地を解消するため、農地を持っていても利用していない人、高齢等で耕作できなくなった人から農地を借り受け、借りた農地で農業をやりたい方に貸し付けるといった政策を「農地中間管理機構」を各県に整備し実施しているところです。

具体的には、日本の農地は小さいので大規模化し効率的に農業ができるよう、「管理機構」が農地を借り受けて管理し、受け手に貸し付けるまでの費用について国が予算措置を講じ、農地の出し手への地代やほ場整備費用などを「管理機構」が負担する制度です。

ですから、農業をやりたいが農地がないという人には、この制度を使って農業を始めていただければいいし、県や市でも新規農業就農者を育成する事業を行っており、国でもその事業を支援しております。例えば初めて農業をやりたいという方には、農業研修期間中の2年間や就農して一人前になるまで最大5年間、運転資金などに活用できるよう、給付金で支援をするといったことも行っています。

また、岡山では「農業女子」のグループが出来上がっており、若手女性農業者などがネットワークを作って情報・意見交換等を行いながら少しでも収益を高めていくといった取り組みも始まっていますので、そういった意味では、官民挙げて農業の後継者の育成に力を入れ始めているところです。

皆さんも興味がありましたら、農水省のホームページを是非ご覧下さい。

Q3. 体験農業を受け入れる側として、生産者側からの視点として問題点がありましたらコメント頂きたい

A. 体験農園塾長 小西氏

問題点といいますか、今回種まきと苗を植え付けられましたが、出来れば途中の管理、収穫まで皆さんと一緒に、その時期時期に行えればいいかなと考えております。

それから、1～2日泊まって、例えば種まきをし、草抜き、収穫をするという一連の作業ができればいいかなと考えています。なかなか難しいですが、まだそういったことが出来ていないのかなと思います。

Q4. 大学生の方から子ども達への食育活動について、ビデオ撮影をして、生産から収穫までを見せることにより伝えていきたいという話があったが、実際に学校の先生方もいろいろされていると思うが、成功例等あればお話を聞かせて頂きたい

A. 小学校栄養教諭

前任地での実践の話になりますが、岡山市の街中の学校ですので周囲には、田んぼとか畑というものがありません。学校の中では、農作物を作付けする場所が大変小さく、1年生から6年生までで6畳分あるかないか、そういった所が他の学校でも通じるところが多いのではないかと思います。

そんな中で本当に小さな畑で、生活科、総合学習、理科など各学年が何らかの作物を植えておりました。近所には、田畑がなく当然生産農家の方もおられない、ではどうしたかと言いますと、学校の近所は、高齢者の方の活動が非常に盛んな地域でした。かつて農業をされていた方、現在家庭菜園で活躍しておられる方々、地元の方々のお力をお借りしました。

学校での一番の課題は、夏休みです。水やりが殆どできなくて枯れてしまうという実態があります。そういった場合に地元の方々が朝早く犬の散歩がてらに学校に来てくださって、草抜きから始まり水やりまでして頂き、なおかつ子供たちと一緒に収穫をし、最後には、収穫した物を使って地域の人、老人会の方をお招きしての調理講習会を開催し、一緒に食事をするという、一年を通しての活動がございました。

そういった生産農家でない、地域の方々の人材を活用して農産物の作付けから収穫、一緒に食べることを通して、自然の恵みに感謝することで子ども達が生産のあり方を理解し、高齢者との交流にも繋がったということがございました。

これは、街中ならではの一つの例ではないかと思いましたのでお話をさせて頂きました。

